

2019 年度  
国際学部  
卒業研究発表会



文教  
大学



2020 年 2 月 17 日 (月)

発表会 : 10 : 30 ~ 15 : 00

全体会 : 15 : 10 ~ 15 : 40

湘南キャンパス 6 号館にて

# タイムスケジュール

集合・準備 9:30～

【この時間は掲示のための時間です。ポスターが仕上がった状態で集合すること】

発表開始

Aグループ 10:30～11:30

Bグループ 11:30～12:30

休憩 12:30～13:30 (成績発表を含む)

Cグループ 13:30～14:30

片付け 14:30～15:00

【この時間に片付かなかったゼミは全体会終了後に片付けてください】

全体会 (教室・6401) 15:10～15:40

(1) 幹部代表挨拶

(2) 学部長・学科長からの講評

※自分のゼミが属しているグループの時間帯は、必ず教室にいること。

※できるだけ全ゼミの教室を回る。

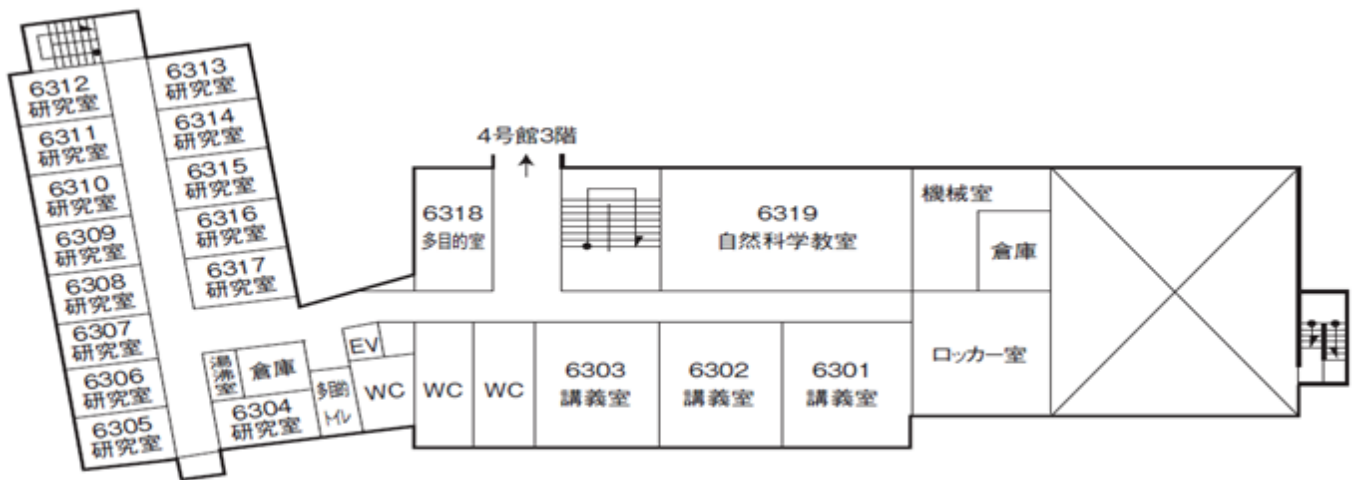
# 教室・時間割り

グループ	教室	ゼミ名
A	6103	生田ゼミ・黛ゼミ
	6106	杉山ゼミ・高橋ゼミ
	6109	海津ゼミ・渡邊ゼミ
	6303	阿野ゼミ・山田ゼミ
	6319	栗原ゼミ・金井ゼミ
B	6104	小島ゼミ・赤坂ゼミ
	6106	北野ゼミ・宮原ゼミ
	6107	高井ゼミ
	6302	塩澤ゼミ・鈴木ゼミ
	6402	齋藤ゼミ・山崎ゼミ・井上ゼミ
	6404	林ゼミ
C	6102	山口ゼミ・千葉ゼミ
	6108	那須ゼミ・奥田ゼミ
	6301	黒沢ゼミ
	6403	菅原ゼミ
	6419	横川ゼミ

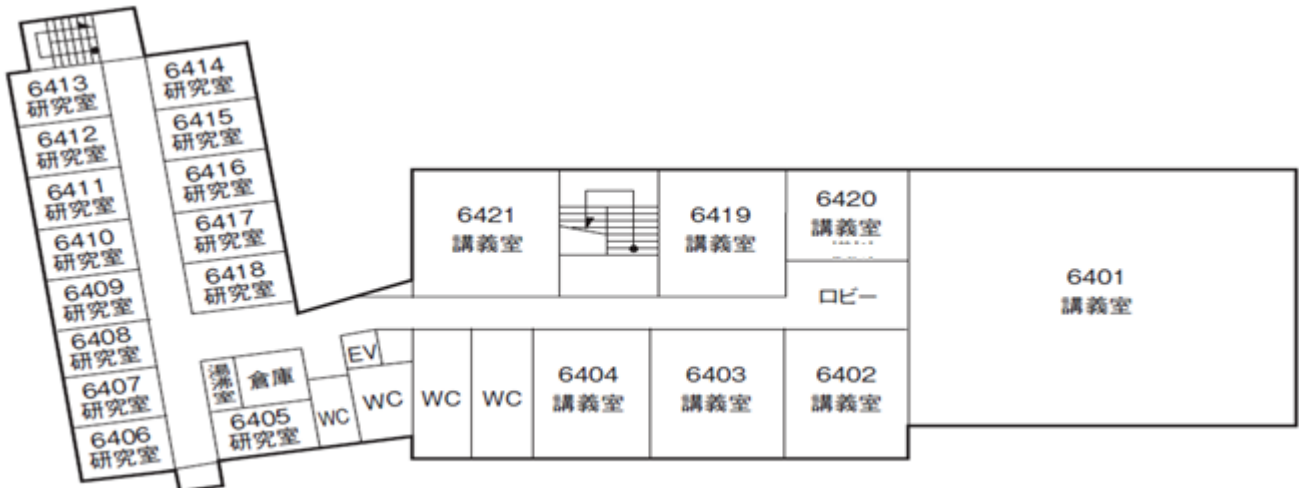
# 会場図



6号館1階案内図



6号館3階案内図



6号館4階案内図

# A グループ

10 : 30 ~ 11 : 30

6103 生田ゼミ・黛ゼミ

6106 杉山ゼミ・高橋ゼミ

6109 海津ゼミ・渡邊ゼミ

6303 阿野ゼミ・山田ゼミ

6319 栗原ゼミ・金井ゼミ

## 生田ゼミ

石川 ひとみ インドネシアの日本語教育における現状と課題-バンドンでの日本語教師アシスタントの経験をもとに-

日本語学習者数世界2位を誇るインドネシアは、なぜ日本語を学ぶ人が多いのだろうか。インドネシア・バンドンでの日本語教師アシスタントの経験を通して考えた日本語教育における現状と課題を分析する。

山口 ひかり 「愛国心」という言葉が日本において複雑なイメージを持つ要因

日本から離れてみると、日本の良さや日本人であるというアイデンティティを意識する機会が増え、これが愛国心なのではと考えるようになった。自国に誇りを持つ外国人の友人たちと話しながら、日本人の私は「愛国心」という言葉にネガティブな印象も持っていることを強く感じた。隣国、韓国との愛国心教育の比較を行いながら、日本における「愛国心」への複雑なイメージ要因を考察する。

荻原 寛奈 SDGsの視点から考える日本社会の幸福度

経済発展が伸び悩む現在の日本社会において、国連の掲げるSDGsの目標に取り組むことで日本人の幸福度を向上させることができるか、他国や企業の事例も参考に考える。

折居 果歩 子どもの貧困の一考察 - 「レ・ミゼラブル」から考える子どもの権利と教育-

ビクトル・ユーゴーの小説、「レ・ミゼラブル」に登場する子供たちの生涯を参考に、子どもの権利の視点から貧困脱却への道筋を考察する。

金子 明日香 Habitat for Humanityの活動と日本人学生の英語学習意欲の相関性

学生の途上国でのボランティアの経験は、英語学習意欲に効果をもたらすかを検証する。

佐々木 玲美 フィリピン人と日本人が協働する環境における言語コミュニケーション

フィリピン人と日本人へのインタビュー調査を行い、より良い関係を構築するために個人でできること、会社として組織ができることを言語コミュニケーションの視点から考える。

## 高橋 慎弥 日本と米国社会の宗教観の比較

日本社会の宗教観は世界でも独特だと言われる。その意味を米国人の持つ宗教観と比較しつつ考察する。

## 宮坂 琴音 「お笑い」は地球を救えるか？-SDGsの認知度と芸能メディア-

吉本興業が「未来社会に輝くいのちのデザイン」というテーマを掲げ、持続可能な社会・システムを実現するために活動していることを知り、芸能メディアがSDGsの認知度にどの程度効果をもたらすことができるかを検証する。

## 山浦 晃平 高校英語教育におけるAIと教師の役割

今後、AIは教師の役割を大きく変化させると予想する。高校英語教育での取り組みを考える。

## 山口 琴乃 日本の中学・高等学校教育における「修復的正義」の実践

日本の教育現場が抱える深刻ないじめなどの問題に対する新しい解決策となり得る「修復的正義」の考え方について考察し、その実践を提案する。

## 上野 瑞季 インバウンド観光客への言語サービスの現状と課題

日本での現場調査と筆者が体験した世界の観光地の事例を参考に、インバウンド観光客への言語サービスについて考察する。

## 生田ゼミナール紹介

3年次前期の模擬国連への参加をはじめ、私たちはゼミ活動を通して英語に触れる機会にたくさん出会いました。また、旅行、ボランティア、研修など目的はそれぞれですがゼミ生全員がそれぞれ海外でいろいろなことを経験しています。そういったお互いの経験から、多くのことを学び、感じ取ることができました。個性豊かな面々が互いの経験や思いから、いろいろなことを感じ考えられる、そんな機会に恵まれたゼミです。

私たちそれぞれの経験から完成した卒業論文を通して、生田ゼミの多様性を感じてもらえればと思います。

山口 琴乃

# 黛ゼミ

## 林乾太

「社会貢献活動を伝えるプロモーション動画の研究 ―紙すき商品販売時の宣伝ツールとして」  
社会貢献活動を背景とした紙すき商品販売時に、活動趣旨を効果的に伝達するツールの必要性を感じ、プロモーション動画の制作を提案した。

## 藤川紗和加

「バリ島における伝統文化の衰退と住民意識の研究」  
観光島化と同時に、その影響を受ける伝統芸術（絵画・彫刻）に携わる人々に対し、伝統文化の維持に関する意識調査を行った。

## 熊倉悠太

「アグリツアーの集客を目的とした web サイトの研究 ―バリ島の農村を事例として」  
アグリツーリズムに取り組むバリ島の農村への集客に有効な web サイトの提案・制作、SEO 対策の研究を行なった。

## 伊田祥子

「アグリツアーの集客を目的とした SNS 研究 ―バリ島の農村を事例として」  
ゼミナールで取り組んでいるバリ島のアグリツアーのビジネス化に対する情報発信体制が不十分であることから、SNS を使用した情報発信の提案を行なった。

## 腰山乾太

「展示会における販売活動のマーケティング研究 ―バリ島産紙すき商品を事例として」  
市場において効率よく紙すき商品を販売するために、顧客心理・店舗配置に重点をおいたセールプロモーション戦略の提案をした。

## 安田まどか

「アグリツアーのマニュアルの作成 ―バリ島の農村を事例として」  
バリ島の農山村地域で行われるアグリツアーのビジネス化に向けて、村人による運営が効率的に行なえる役割を持つ、ツアー催行の方法をまとめたマニュアルを作成した。

## 稲垣実唯希

「社会貢献を目的とした商品の演出方法の研究 ―バリ島産紙すき商品を事例として」  
バリ島産の紙すき商品を、社会貢献活動の主張を強調して販売するための演出方法を提案した。



## 原勇治

### 「バリ島を代表する生物のキャラクターデザインの研究」

アグロフォレストリー活動における紙すき小産業の発展に向け、商品の魅力を高めるための、バリ島を代表する植物と果物のキャラクターデザインの提案を行なった。

## 近藤杏奈

### 「アグリツアーにおけるサイン研究 —キャプションボードの提案」

アグリツアーの道中で使用されるサインとしての情報提供ツールである、キャプションボードのデザイン研究を行った。

## 村上愛花

### 「アグリツアーの動画プロモーション研究 —バリ島の農村を事例として」

バリ島の農村で計画しているアグリツアー販売に対するオンラインプロモーションに利用可能な、プロモーション動画を提案し、実際の販売につなげる実験を行なった。

## 古橋藍

### 「ルーラルツーリズム運営の現状調査 —埼玉県ときがわ町を対象として」

埼玉県ときがわ町を対象として、ルーラルツーリズムのプログラム運営者にインタビュー調査し、現状と問題点の分析と、今後の課題を提示した。

## 高橋彩花

### 「アグリツアーのプログラム研究 —バリ島の農村におけるガイドツアーを事例として」

バリ島の農村で実施するアグリツーリズムにおけるガイドツアーについて、コース別に多彩なプログラム内容の提案を行なった。

## 丸茂奈緒

### 「アグロフォレストリー活動における紙漉き商品のセールスプロモーション研究」

バリ島の農村で作られた紙漉き商品のイベント出店での販売について、社会貢献色を強調する形としない形を提案し、効果的にプロモーションできる演出方法を知る実験を行なった。

## 黛ゼミナール紹介

黛ゼミナールでは、世界中のどの場所にもある次世代に残していくべきヘリテージ（自然環境・遺産・文化・生活慣習など）を持続可能な形で残していくため、さらに、そのヘリテージをめぐって現地の経済が活性化されるために、観光振興によるビジネスで活かす方法を学び、かつ、その実践の機会を持っています。この実践の機会を主としてバリ島で、直接にゼミ生皆に肌で感じていただきながらの学ぶ実学の機会となっていて、貴重な体験になっています。

## 杉山ゼミ

東樹佳希

「新潟県越後湯沢の食と文化を通じた観光」

地元新潟で近年、スキー客が激減する観光地のオフシーズンの集客の改善、またそれが新潟へどのような影響をもたらすのか、論ずる。

### 杉山ゼミナール紹介

杉山ゼミでは、興味を持った話題を1年かけて勉強するゼミです。今年はい新潟の温泉旅館やご当地グルメに関して研究しました。現地に行ったり、食について触れたりなどしたことをパワポにまとめ、発表するなどしました。

## 高橋ゼミ

川越岳路 「インディペンデンス・リーグ」地域密着型野球選手の歩む道 ～日本野球人気復活の序章～

地域に密着したもう一つのプロ野球「独立リーグ」スポーツの花形と言われた裏で、人気低迷に陥っている日本野球。そこに着目したのが「会いに行けるプロ野球」野球人気復活をかけて一石を投じる地域密着型野球とは。

富澤実佐子 教育現場における頭髪規定 ～茅ヶ崎市の県立高校を中心に～

近年、日本では頭髪について注目が集まっている。そこで、高校教育では頭髪はどのように位置付けられているのかを研究する。

### 本浜ゼミナール紹介

本浜ゼミは、日本の文化を本や映画、ニュースなど様々なツールから読み取り考察するゼミです。自由な発想を許されるゼミであるのと同時に、社会の基礎を学べることができました。

## 海津ゼミ

### 橋本真那 写真が未来にもたらす価値の大きさ

写真技術の進化が進む中、人々の写真に対する意識を調査、プリントされた写真が人々に与える力はどんなものなのか考察、プリントされた写真の持つ価値の主張。

### 酒井優希 筑波山地域ジオパークの現状と今後の展望について～運営組織側と観光に直接かかわる事業者の視点より～

筑波山地域ジオパークの現状や今後の展望について運営組織と事業者の視点から調査を行い、双方の意見をもとに考察を行う。

### 島崎嗣詩 浜降祭が地域コミュニティに与える影響についての研究

茅ヶ崎市の四大祭の一つである浜降祭が、開催されることによって地域住民と地域コミュニティに与える影響について明らかにする。

### 上村野乃花 なぜ女子旅に出るのか

近年の旅の形の変化と、観光とジェンダーの結びつきについて研究し、今後の旅の形を考察する。

### 渡邊佳那 新潟県村上市における若者観光客誘致計画～ギャップのない観光を目指して～

地元である村上市で観光の取り組みに対する調査を行い、様々な視点から改善点や課題を見つける。また、神奈川県三浦市を比較地域としてそこでの調査結果を踏まえ、誘致方法を提案する。

### 武井美鈴 喫茶店の存在価値と活用についての研究～将来を見据えた喫茶店の提案～

喫茶店の原点に遡り、現状から抱える課題に焦点を当てて今後の新たな喫茶店の可能性、あり方について提案する。

### 鈴木志穂那 天然ホテルと養殖ホテルの比較からみる「ホテル観光」の可能性

ホテルの存在の仕方から比較することで、ホテルが及ぼす自然資源と地域への影響、また観光資源としての今後の可能性を考察する。

### 鈴木塁 車社会と多様化する休憩施設等に関する研究～日本のドライブインに着目して～

日本のモータリゼーションと共に成長したドライブインの歴史を紐解き、その存在意義と現代の社会に与えた影響について考察する。

### 渋谷正洋 野毛町の飲屋街としての現状を探る

ヒアリング調査から野毛町を利用する人と、お店を営む人、両側の視点から野毛町が抱える課題を見つけ出し、解決策を提案していく。

### 飯田仁美 郷土玩具「大山こま」の継承者問題とこれからの可能性について

神奈川県伊勢原市にある大山のお土産である大山こまが持つ後継者課題について調査し、今後の可能性を考察する。

### 星摩結子 グリーンツーリズムを推進するためには～宮城県加美町を事例に～

グリーンツーリズムの現状と課題を理解した上で、推進するために地域がすべきことを研究する。

### 高森彩花 民謡と津軽三味線の若者への継承

若者へ伝統芸能である民謡と津軽三味線への認知を調査し、現状においてどのように継承して行くべきかを考察する。

### 百瀬大河 信越トレイルを利用した飯山市の地域活性化

信越トレイルと長野県飯山市のつながりを調査し、今後のトレイルを利用した地域活性化について考察する。

### 半田紘子 愛され者のネコに潜む侵略的外来種ノネコという一面、凡人の私たちが希少生物とノネコ両者の命を救うには？～奄美の「ノネコ管理計画」を事例に～

奄美の「ノネコ管理計画」を事例に、日本の抱えるノネコ問題を明らかにし、一般人の私たちがノネコと希少生物双方の命を救うために出来ることは何かを考察する。

### 海津ゼミナール紹介

海津ゼミでは「エコツーリズム」をキーワードにさまざまな地域振興プロジェクトに取り組んでいます。それぞれの個性的が光るフィールドを持って取り組んだ12期生の卒業研究、ぜひご覧ください。

# 渡邊ゼミ

## 市川エリアーナ 「日本の国際結婚と多文化家族」

国際結婚をした両親と自身の経験も参考にしながら、配偶者のどちらかが日本人の場合の日本国内においての国際結婚を調査し、その現状と実態を明らかにしたうえで、日本で生活する際に壁になるものは何か、また国際結婚をした夫婦の間に生まれた子どもが抱える苦悩について論じる。

## 瓜生美織 「貧困地域へのホテル産業進出の見込みと課題～ホテル産業の貧困地域への進出は可能か～」

この論文では、ホテル業界の異なる発展と企業拡大を目的とし、貧困地域で中間層をターゲットにしたホテル企業の進出の見込みと課題を明らかにし、進出の可能性の有無などを提唱するものである。

## 木内陽 「アナキズムは実現可能か」

私は現代の政治不満やデモなどに対し「何故この人たちは新たな縛を求めるのだろうか」という疑問を待った。序論ではアナキズムの定義や変遷を述べた後、現代のアナキズムを考察し本当のアナキズムとは何か、それは実現可能かを論じる。

## 小林壮志 「日本と海外のアニメの認識の違い ～海外でアニメ化された週刊少年の作品に限定して～」

日本と海外においてのアニメ文化、アニメへの考え方、認識などを週刊少年ジャンプよりアニメ化、海外で活躍するアニメに限定して、タイ・アメリカ・フランス・日本を比較しながら、アニメに対する偏見などをどう払拭するかを論じる。

## 後藤楓 「廃墟と人間の記憶」

価値があるにも関わらず、世界に放置されているたくさんの廃墟を保存するにはどうしたらいいか、また保存することで私たち人間に記憶として残り後世に伝えていくことができるだろうか。過去の廃墟の評価価値はほとんど確立されておらず私たちがその評価を決めていく必要がある。遺産という形で様々な建物を残すメリットやデメリット、その方法を研究する。

## 齋藤紋佳 「東日本大震災被災地の復興とまちづくり ～ふるさと気仙沼に目を向けて～」

東日本大震災で被害を受けた宮城県気仙沼市は一刻も早く復興の歩みを進めた。町の再建に対し人々は葛藤がなかったのか調査するとともに、被災地という代名詞を強みにしながら取り組むまちづくりの在り方を提唱する。

### 篠田歩 「日本での医療大麻解禁に向けて」

諸外国では医療大麻が解禁されている中で、日本は禁止されている。医療の発達などが目まぐるしい日本でなぜ解禁されないのかそもそも日本人は大麻＝悪から始まり、それを流用した医療大麻も怪しい、怖いなどのイメージを持ちがちである。この論文では医療大麻とは何なのかどんな効果があり、どのような社会的影響があるのかを論じる。

### 清水将之 スイス・英国から分析する日本のフェアトレード市場の改善点

本稿では、フェアトレード先進国であるスイス・英国におけるフェアトレードの取り組みを明らかにし、そこから見えてくる日本のフェアトレード市場の課題点・改善点を明確にすることを目的とする。

### 松波春郁 「幸福度は何を示すのか～日本と世界の幸福度の比較～」

幸福度とは、世界の市民が自分自身どれだけ幸せに感じているかを調査したものである。私が感じる幸福度に対する疑念を持ちながら、世界と日本の幸福度を比較し、日本にとっての理想の幸福を探していく。

### 山崎梨紗 「在日ムスリムの人々との付き合い方 ～共存しやすい世界へ～」

世界の3人に1人がイスラム教になると言われている今の時代、2020年のオリンピックを機に日本人はムスリムと関わる機会が増える。ムスリムが日本で暮らしやすくする為にはどれほどの対応が必要なのか明確にする。

### 渡邊ゼミナール紹介

私たち渡邊ゼミは、10日間のフィリピン研修やグループごとの足立区でのフィールドワーク、本の輪読を行いながら、身近に潜む貧困の存在や人との対話の仕方など様々なことを学んできました。特にフィリピン研修ではたくさんの施設を訪れ、実際に自分たちの目で見て肌で感じる事ができてとても貴重な経験でした。ディスカッションでは意見が飛び交い、いつも賑やかなゼミです。

## 阿野ゼミ

上野仰 「英語授業内で行われる音読における効果と目的別音読指導法」

言語習得において効果があると言われている音読だが、授業内において惰性で行われる傾向にある。そのため、音読の効果を再確認し、生徒の英語力向上に繋がる活動の目的に応じた音読指導法を提案。

小熊優華 英語での「やり取り」の力を伸ばすための取り組み

～授業分析からわかる生徒の発話を促す工夫～

中学校の授業実践から、教師による「やり取り」においてより良いアプローチを学ぶ。

久米本遥香 「高校の英語授業において中学校とのギャップをなくすために」

多くの生徒が直面する、中学校と高校での英語の授業のギャップをなくすためにはどうしたらよいか考え、そのための授業を提案する。

里見心 「中学校の英語の授業を英語で行うための CAN-DO LIST」

2021年度から中学校の英語の授業は英語で行うことが基本となる。生徒が授業を英語で行うために教師に求められる力を CAN-DO LIST の形式で示す。

高橋昂輝 「英語教育からみる洋楽～Taylor Swift の楽曲から～」

洋楽を英語授業で用いる際 Taylor Swift の楽曲を活かした指導法を提案しました。

長崎優人 「レゴブロックで英語学習-言語習得の観点から-」

現在 STEAM 教育にて、レゴブロックを用いた体験型学習が注目されていると言える。この体験型学習を言語教育にて活用すると、どのような効果が望めるのかを言語習得の観点から考察していく。

松浦伶奈 「教科書本文内容理解において生徒に深い読みを促すために～高校教科書のテキストタイプによる発問の工夫～」

教科書本文の深い読みを促すための教師の支援として、発問の視点からテキストタイプ別に研究しました。

### 宮越稀愛 「発信活動を通じた中学生の英語力育成」

自分の言葉として英語を使うことを目的とした「発信活動」に焦点を当て、授業の中で取り入れるための活動を提案していく。

### 吉田優衣 「学習への意欲が高まる英語イベント」

現在様々な場所で行われている英語のイベントを研究し、学習への意欲が高まり、学校で学んでいる英語を使うことのできる英語イベントを提案します。

### 渡邊寛野 「小学校英語教育における絵本の活用」

2020年より小学校5・6年生で外国語が教科となり、3・4年生で外国語活動が実施される。その授業の中で絵本をどのように活用していくことができるか考えました。

### 阿野ゼミナール紹介

阿野ゼミナールは、「英語教育」に力を入れて学ぶゼミナールです。私たちはこの2年間で、実際の教育現場に行き教師のあり方や生徒との接し方を学んだり、PAAL(環太平洋応用言語学会)で発表したり、模擬授業を行ったり、他大学と合同ゼミを行ったりするなど、様々な活動を通して、実践的に学んできました。

今回の卒業論文では、今までの学びの集大成として、いろいろな観点から英語教育について研究しました。ぜひご覧ください！

## 山田ゼミ

### 印南享都 「賑わいにおける道の駅による地域活性化」

道の駅が地域活性化の拠点になっているのか？

### 大田結生 「まちづくりにおける女性参画の可能性」

まちづくりにおける男女共同参画と女性参画の今後についての考察。

### 川島新菜 「パブリック・トラストを得たミュージアムは地域の中で存続するか」

博物館への来館者が年々減少している我が国において、対話型鑑賞を用いた交流を活用することで市民とミュージアムの間に信頼関係が築かれるか考察する。



### 佐藤菜美 「地方創生における若者の重要性」

私は大学進学を機に関東圏に出てきました。地元の良さを改めて知りつつも、地元に戻ろうとはなかなか考えられず、私と同じような若者も多いです。

その中で、地方ではいかに若者の存在が重要視されているのか興味を持ったので、それをテーマにしました。

鈴木夏奈美 「地域猫プロジェクトを活用した、人と猫の共生方法」 地域猫活動とは、地域で飼い主のいない猫の面倒を見ることで飼い主のいない猫を減らすという活動です。多くの人が協力して活動すると人と猫が共生できる社会が生まれるのではと思い、研究してみようと思いました。

### 関陽祐 「賑わいを生み出すための公共空間のデザインと活用」

地方都市の抱える問題を公共空間をつかって賑わいを生み出し活性化させる手法を考察する。

### 中村凌 「女性専用車両は何故うまくいかないのか？」

男性、女性の視点から改めて女性専用車両の在り方について述べる。

### 保坂祐介 「孤独をなくすためのコミュニティづくり」

孤独や孤独感からうつ病や自殺が増加している現状があり、そこにはコミュニティや人間関係についての社会的問題がある。孤独や孤独感をなくすためのコミュニティづくりを提示する。また、コミュニティに入ることすらままならない人のために死生感という観点から生きる意味など孤独感をなくすための方法を提示する。

### 山崎英幸 「遊び場が子どもに与える成長」

子どもたちの遊び場（遊び方）が徐々に制限されているという事実から、未来の子どもにあるべき環境づくりを考える。

### 山田陸 「学校という閉鎖的空間におけるいじめ問題への対処」

学校で生徒によって行われるいじめの構造説明と対処法の考察。

### 吉田彩笑子 「コンパクトシティにおける中心市街地にもたらす効果」

地元で行っている政策であるコンパクトシティの効果と考察を述べる。

### 山田ゼミナール紹介

「まちづくり」における市民参加と地域社会を主なテーマに、市民参加による社会問題の解決について学んでいます。ゼミの活動では珍しく、3年生と4年生が合同で活動する機会が多いことが特徴です。

## 栗原ゼミ

### 中村汐里 化粧品業界における EC 化率の向上の提案

15 歳～29 歳の、化粧品インターネットの購入率は低い。インターネット購入に影響を与えているのは、年齢なのか、メーカーの重要度なのかを検証する。

### 小池優歩 文教大学が学食ランキングにランクインするためには

文教大学の学食は美味しいが、学食ランキングなどに名を連ねるほどではない。それは周辺に競合他社となる飲食店の数が少ないということが関係しているのかを考察していく。

### 浅田涼 ビール消費量に影響する要因の検証

ビール消費量に影響する項目に着目してデータを用いて検証する。

### 大隅優輝 中国サッカーの発展と課題

中国サッカーについて考察し、今後さらに発展していくためには何が必要なのかを探る。

### 荒川航一 地域鉄道廃止後の人口推移との関連性

鉄道が廃止されることによって人口に変化があるのかを検証し、今後廃止される鉄道がどのような道を辿るべきか探る。

### 長谷川輝 ディズニー長編アニメーション作品の実写化時に与えた影響の考察

— 『美女と野獣』 を例に挙げて —

ディズニー映画『美女と野獣』のアニメーション版・実写版・原作の三つの作品形態を比較することで、世間が作品に与える影響の大きさを調査する。

### 古澤葉月 昼寝による効果と学校での利用について

— 文教大学湘南キャンパスを一例に —

最近企業や学校で導入されている昼寝を、文教大学湘南キャンパスの学生を対象に実験を行い、その効果を証明する。

## 大澤 望 若者の酒離れからみる酒蔵ツーリズムの現状と課題

### —成功例と成功見込み例を参考に—

若者の酒離れが進行する原因を考察。その中で、酒蔵ツーリズムが行っている取り組みと課題を見つけ、今後若者を呼び込むための提案をする。

永島寿史 スポーツツーリズム振興が地域活性化に与える影響

スポーツを通じた観光スポーツツーリズムが地域の交流人口拡大に与える影響についての考察

## 栗原ゼミナール紹介

栗原ゼミナールでは、三年次には観光によるまちづくりについて、論文を作る際のデータの収集の仕方、検証の仕方について学びました。それを生かし、8人それぞれが興味のあることを卒業論文として研究することにしました。週に一度、それぞれの進捗を知ることにより新たな視点から自分の論文を見つめ直すきっかけとなり、全員の論文の成長につながったと思います。

# 金井ゼミ

## 藤原有希 Sustainable impact to society

近年、SDGsなどで注目されている Sustainable という言葉は各セクターにどのような影響をもたらすのか

## YANG XIN 在日コリアンの現状から見る～差別のない社会づくりへの展望～

戦前朝鮮人の在日経緯を説明し、そのまま日本に定住してきた在日コリアンの現状や将来などを述べていく

## 近藤七海 狩猟から見る野生鳥獣との共生

狩猟の歴史・現在の鳥獣保護管理の状況から、野生鳥獣との向き合い方について述べる

## 佐藤ゆい 北朝鮮が暴力性を帯びた理由

朝鮮半島分断からの歴史とともに北朝鮮が暴力的な国家になった道筋を辿っていく

## 金井ゼミナール紹介

金井ゼミは、法律の基礎知識をもとに、社会への理解や関心を深めるゼミです。3年生では、「行政法入門」の精読、子どもの貧困のディスカッション、子ども食堂へのボランティア等、具体的な活動から様々な社会問題に接してきました。4年生では、そのようなゼミでの学びを通じて興味を持った事柄を、それぞれの研究テーマとして取り組みました。

# Bグループ

11 : 30 ~ 12 : 30

6104 小島ゼミ・赤坂ゼミ

6106 北野ゼミ・宮原ゼミ

6107 高井ゼミ

6302 塩澤ゼミ・鈴木ゼミ

6402 齋藤ゼミ・山崎ゼミ・井上ゼミ

6404 林ゼミ

## 小島ゼミ

天沼知遼 「幼児期における家族旅行は発達にどう影響するのか。」

0歳～10歳までの間に人は様々のものを吸収し人間形成をすると聞いたことがある。そこでその間に国内外問わず家族旅行をすると性格や感性、価値観などの形成に深く関わってくるのではないかと考えた。また、どのように影響を及ぼしていくのかを本論文では調べた。

飯塚萌香 「有料着席サービス列車の導入はなぜ増加したのか」

近年、特に東京圏をはしる鉄道会社の有料着席サービス列車の導入が増加しているが、なぜ増加しているのか、そしてわたしたち利用者はもちろんのこと鉄道会社にはどのようなメリットがあるのか、考察をする。

井元彩月 「女性にとってやさしい交通とは」

近年問題となっているベビーカー論争やマタニティマークについて意識調査をおこなうなどして、女性が利用しやすい交通機関にするために何が必要なのかについて考察する。

上原一樹 「日本の航空需要は今後、国内線・国際線共にどう変化し、日本の航空会社は需要の変化にどう対応するのか」

日本の航空会社の歴史や空港の現状などを調べた上で、今後の需要の変化やFSC・LCCの競争などを考える

臼井梨菜 「国内旅行における交通手段選択～大学生の利用率を高めるためにはどうしたら良いか～」

国内旅行において、複数の選択肢の中から利用する交通機関を選ぶときに何を重視しているのかを調査した。大学生を対象としたアンケートを実施し、その結果をもとに大学生の交通機関（新幹線・飛行機）の利用率を高めるためにはどうしたら良いのかを考えた。

内田逸人 「北陸新幹線の開業による北陸地域への影響」

北陸新幹線が金沢へ延伸開業してから北陸地域にはどのような影響があったのか、主に人口減少についてと第三セクター鉄道の動向から見ていく。

### 富岡莉央 「自動運転の地方における活躍について」

自動運転技術が年々進化しており、完全自動運転化に向けて多くの企業が技術開発を進めている。しかし、現代社会には多くの問題があるため、自動運転はそれらに対してどのように役立っていくのかなどについて述べる。

### 中三川晴香 「交通弱者をなくすためには ～栃木県佐野市の事例から～」

過疎地域の路線バスが減少していることから、どうしたら、交通弱者を助けることができるのかというのを主に、地元栃木県佐野市の事例から検証していく

### 比留間匡秀 「カンボジア系エアライン、発展への道」

グローバル化が進む中で、自国エアラインは重要だ。しかしカンボジアを始めとする途上国においてはそれらの整備が追い付いていない。発展には何が求められるのかについて考える。

### 渡邊晴香 「インバウンドが求めているバスツアーとは」

訪日外国人観光の団体旅行から個人旅行へ需要が変化している中で、バスツアーを利用してもらうにはどのような対策をとるべきか考察した。

### 小島ゼミナール紹介

小島ゼミでは、航空、鉄道、自動車交通などの交通機関や、空港や道路といった交通インフラなどを研究対象としています。ゼミ活動では、成田空港や羽田空港の見学、航空会社や鉄道会社への訪問を行い交通事業についての見聞を広めるとともに、交通と観光、地方交通の維持などといった交通に関連するさまざまな問題について学んでいます。やるときはやる、遊ぶときは遊ぶというメリハリがあるゼミです。

# 赤坂ゼミ

**根本麗香** 学校病理を予防・対処する心の教育の在り方～特別活動と道徳教育から見つめ直す～  
いじめと不登校について文部科学省のデータから考察し、学校生活において教師がどのように指導していくか、また児童生徒に対してどのような行動が適切なのかを述べる。

**座間悠平** 日本の学校は、なぜ多くのことを求められるのか～海外と比べる教育“後進国”ニッポンの現状～

今日において教師の不祥事は後を絶たない状態が続いている。それと並行し、学校現場は「ブラック」と呼ばれ、教師の負担が計り知れない。そんな中、学校現場では「人間形成」が求められるが教師には時間に余裕がなく、うまくいっているとは言い難い。このようなことから子どもの幸福度が高い海外のいくつかの国と比較し、本来の求められる必要な教育とは何か、日本の教育には何が足りないのかを探求していく。

**豊内香子** 不透明なグローバル社会に求められるリーダー～個を育てる学級づくりを中心に～  
学校生活では、さまざまな集団が存在し各集団にリーダーが存在する。学校はリーダーを育てるうってつけの場所である。しかし、リーダーだけを教育するのではなく、その集団全体などリーダーを取り巻く子どもも教育していかななくてはならない。

**橋本郁也** 運動部活動での人間形成～対人関係スキルトレーニングの重要性～

運動部活動はなぜ存在するのか、今の運動部活動の現状、そしてそれから学べるものは何があるのか、現在では運動部活動を経験した子どもたちは最低限、必要とする能力は挨拶である。挨拶は生きていく事で最重要事項である。

**青山大悟** 子どもたちの笑顔を守る教育～支持的風土のある学級づくり～

いじめについて根本的な視点から考えていく。過去のデータを元に学年別にいじめの内容や種類をまとめていき、正しい教育方法を見つける。また、授業の進め方、生徒との関わり方について研究していく。

**内野恵梨** これからの社会とキャリア教育～子どもたちの未来を見据えた支援の在り方～

新たな社会と呼ばれる 2045 年に向けて、キャリア支援教育はどのように変わっていくべきか。未来の社会像を元に学校で求められるキャリア教育の在り方について述べていく。

## 加賀谷安澄 インクルーシブ教育の必要性～共に生きる社会を目指して～

特別な支援を要する子どもたちに焦点を当てながら、共に学び共に育つ教育の実現へ向けて教師はどのように対応していくべきかを述べる。

## 鈴木瑠美 共生社会を目指した障がい理解教育の推進～特別な支援を必要とする子どもへの差別意識をなくすために～

福祉施設での傷害事件を参考に、障がいがある人への偏見とその原因を明らかにし、差別をなくすために学校教育で行えることを提案する。生きていることは喜びである。

## 千葉穂乃香 子どもの自己肯定感を育む大人の支援～学校と家庭との連携・協力を強化して～

生きていくうえで、人間の根底にある大切な感覚「自己肯定感」。現代、自己肯定感が低い子どもたちのために大人がすべきことは何かを教育の視点から述べていく。

## 津野豊 いじめ問題に立ち向かう教師～一人一人が輝ける学級づくりと授業づくりを中心に～

今日のいじめ問題についての考察をする。いじめは身体的なものだけでなく、心理的な攻撃も含まれている。またいじめの可視性が急激に低下している現在、どのようにすればいじめのない支持的風土のある学級を形成することができるかを考究してゆく。

## 生井沢駿介 多文化共生教育の起点となる異文化理解～他者理解を促す外国籍児童との交流を中心に～

グローバル化が進む現代日本において、様々な国の文化を理解し、同じ日本で生きていくための考え方を述べていく。

## 山崎康代 子どもを幸せへ導く家庭教育～“無償の愛”に包まれた子ども～

学校現場におけるトラブルは現代では社会問題となっている。いじめによる自殺、不登校などに学校の教員が頭を抱えている。本論ではその原因が家庭教育にあるのではないかと仮定し、本来の家庭教育の在り方を「愛」という観点から追求していく。

## 赤坂ゼミナール紹介

赤坂ゼミでは子どもたちを笑顔にすること、幸せにすることを道徳、特別活動を通して考え、茅ヶ崎市とたくさんの交流会をこなし実践力を高めています。この活動を活かし学級経営や子どもとの触れ合いをどのようにすればよいかを考察しています。



## 北野ゼミ

新堀雄斗

### **A Comparison of American Elite and Japanese Elite**

アメリカと日本のエリートについて、同じ高学歴といえど、その発生過程や社会への責任は大きく異なると映画を通して感じ、エリートが世間から期待される共通点や相違点、背景などを比較する。

田口智士

### **The comparison of Japanese baseball and American baseball**

日本の野球とアメリカの野球について比較しました。

佐藤匠

### **Women in American Movies and Indian movies.**

私はアメリカの映画とインドの映画における女性の描かれ方から分かる文化の違いを調べました。

村上敬太郎

### **Difference in basketball game between Japan and America**

バスケットボールの試合から分かる文化を調べてました。

Huang Zijing

### **The Vietnam War in the media in different eras-[The Quiet American] and its two films**

さまざまな時代のメディアにおけるベトナム戦争-「The Quiet American」とその2つの映画

北野ゼミの紹介

### **culture in media**

様々なメディアから、文化を読み取って学んでいます。

# 宮原ゼミ

藤原円実 “MaaS を利用した姫路城周辺の観光サービス～”

次世代移動サービス MaaS（マース）の姫路市での活用の提案。また、姫路城周辺の観光サービスについて考える。

宮原ゼミナール紹介

宮原ゼミナールでは、テーマを決めて、先生と何度もディスカッションを重ね活動を行っています。

## 高井ゼミ

### 大岡祐樹 日韓関係の歴史・政治問題と訪日旅行

慰安婦問題などで、日韓関係は継続して悪化し続けている。しかし、2014年以降訪日韓国人観光客が増加していたのも事実である。なぜこのように韓国人が訪日旅行をするのか、そこには抵抗がなかったのかを明らかにする。韓国人にとって歴史的な問題に抵抗を感じるのか、... それとも政治的か、...

### 軽部友紀 音楽フェスティバルが地方創生としての効果をうむかどうか～山梨県開催のロック・フェスティバルを事例として～

文献調査や現地調査を行い、近年社会問題になっている地方創生をトレンドである音楽フェスティバルの存在で地方に良い影響を与えるかについての研究。

### 小島愛華 韓国芸能界とフェミニズム

韓国芸能界に元々興味があり、韓国芸能界について卒業論文を書きたいと思いました。最近韓国では情勢アイドルが2人立て続けに自殺しており、その原因としてネットでの誹謗中傷がありました。内容は主に男性からの女性卑下発言です。韓国ではフェミニズムの動きが目立ってきており、それに関心を持ちました。

### 小島萌 観光ガイドブックにみるハワイ観光

日本からの人気の高い観光地であるハワイに焦点を当て、日本人が憧れるハワイのイメージについて観光ガイドブックの分析を通して明らかにしていく研究。

### 関口実優 消費者の決め手になり得るの何か - 旅行を例に考察する -

社会環境の変化とともに変わりゆく若者の価値観に焦点をあて、シミュレーションを超えた消費が行われるのには、どのような基準があるかを考察した研究。

### 高木愉加里 インバウンド婚がブライダル業界に与える影響について

訪日外国人による結婚式“インバウンド婚”を調査、分析し日本のブライダル業界に与える影響について考察する。

## 田村佳乃子 日本における大学生の就職活動について～若者の入職経路の日米比較～

日本とアメリカそれぞれの大学生が置かれている就職活動状況を比較し、共通点と相違点を考察したうえで、日本の就職活動の特徴を明らかにする。

## 益子華奈 自尊心が高いと本当に幸せなのか

日本人の空気を読んで生きている空気感に違和感を感じ、その心理はどこから来ているのか気になった為、このような卒論を書こうと思いました。

## 峰田紗季 人工知能導入によるスマートホテルの実態-変なホテルの実態調査と雇用代替の可能性-

スマートホテルの代表である変なホテルの実態調査と人工知能による雇用代替の可能性を考察した研究。

## 安江彩夏 アートプロジェクトの社会文化的役割-横浜トリエンナーレから考察する-

現代アートの役割や存在意義について先行研究等を活用しながらさらに深く知り、現場と課題を明らかにするため、現代アートの役割を訪日観光に焦点を当て、社会的・文化的役割を考察する。

## 安川由夏 日本における LGBT が抱える課題についての考察～カミングアウトと旅行に焦点をおいて～

日本の LGBT の人々のカミングアウトと旅行についての現状と課題を明らかにし、LGBT 課題についての考察、解決方法を提案する。

## 吉田瑠里 世界一周は自己肯定感を高めるための役割となるのか

自己肯定感を高める要素をまとめた上で、世界一周経験者のブログを独自調査・分析し、世界一周は自己肯定感を高める役割となるのかを明らかにした研究。

## 羅丁文 ゲームが観光に与える影響について - ゲームが観光資源にあり得るのか -

「日本は今、ゲームであふれている。」駅でも、町にも、人の生活の中に、ゲームは現実に近い存在になりつつけている。特に、われわれ留学生にとって日本に関心を持った一つの方法であり、日本の観光産業に新たな分野になるのではないのでしょうか。

## 小松さくら 訪日観光市場における新たな戦略に関する研究-富裕層マーケットの事例-

訪日観光市場において今注目が高まっている富裕層マーケットに対し、海外の事例をもとに、今後日本の観光業がどのようなアプローチをしていくべきかを考察する研究。

## 高井ゼミナール紹介

若者の観光行動や価値観・ライフスタイル、日本を起点としたインバウンド・アウトバウンドについての研究を通して、社会そして世界を見るゼミです。個性溢れる人が多く、1人1人が目標をもって取り組み、学び続けることが出来ました。高井先生のパワーとパッションを引き継ぎ、鋭い質問ができる考察力が身につきました。

# 6302

## 塩澤ゼミ

白藤紗季・齊藤千紘 ～なりたい自分になるために～

男は男らしく、女は女らしくといった男女の社会的格差に視点をおき考察する。なりたい自分になるためにジェンダー（性）から自由になった人の価値観を人形劇を用いて身近なものにした作品。

狩野朱音 「the story」

自分の体験や価値観をもとに、教訓を与えられるような物語を作りました。

寺嶋佳香 地域活性ワークショップフィールドワーク案 まとめ

地域の魅力に気づくきっかけや人が集まる機会が生まれるようなワークショップやフィールドワークの案を考え企画書形式で複数まとめる。

栗田美穂・山形詩織 After Cinderella Left

3年のオーラル・コミュニケーション・フェスティバル(OCF)で演じた劇を絵本にして残したいという思いから、After Cinderella Left(仮)というタイトルで塩澤ゼミナールの学生2人によって制作された作品である

## 塩澤ゼミナール紹介

私たちは小学生を対象とし楽しく英語を教える活動や自分たちでオリジナルの英語劇を作品として発表する事をメインに外国人交流会などを行い、コミュニケーション力を強化しています。私たちは卒業論文という固定概念を覆すような個性的な作品が集まっています。

塩澤ゼミ 4年 白藤紗季

# 鈴木ゼミ

## 石井絵莉香 宝塚歌劇団の顧客離反の抑止に向けた取り組み

宝塚歌劇の顧客離反について、ファンの分類ごとの特徴に合わせた対策を提案する。

## 石井七海 Twitter と Instagram における女子大学生の利用状況と関係

女子大学生の Twitter と Instagram の使用方法の違いを考察する。

## 石川温子 「民泊」～今後、日本に民泊を定着させるために～

Airbnb のレビューをもとに民泊が他の宿泊ビジネスと肩を並べ、定着していくには何が必要なのかについて分析した。

## 上野真由樹 若者の自動車離れ ～カーシェアリングの台頭～

長い間若者の自動車離れが問題になっているが、未だ解決には向かっていない。そこで現状の問題点と昨年台頭してきたカーシェアリングに焦点を当てて見ていきたい。

## 江原美季 大学生の働くことに対するイメージ

学生から社会人になる大学生は、働くことに対してポジティブでもあり、ネガティブでもある。その要因は何か、そして社会人になってから満足して働くためには何が必要か分析した。

## 加藤あす香 現代の大学生は何に幸福を感じるのか

幸福度が低いと言われている日本だが、若者の幸福度は高いように感じていた。そこで文教大学国際学部アンケート調査を行い、現代の大学生の幸福度やその理由を研究し、分析した。

## 坂下加那子 大学生に寄付を広めるには

近年日本では寄付やボランティア活動など、社会貢献への関心が高まりつつある。そこで大学生の寄付への意識に焦点を当て、今後寄付文化をさらに定着させていくためには何が必要か分析した。

## 竹内佑衣 大学生における海外ボランティアの意義や経験効果

ボランティア活動経験を通じて得る満足度、充足度などに着目したのち、今後の自分の生活に与える影響は何か分析した。国内ボランティア経験者、海外ボランティア経験者にインタビューし比較した。

豊田ちひろ 心理コミュニティが宿泊施設に及ぼす影響 ～ドッグコミュニティを活用したレジ  
ーナリゾートホテルを事例として～

近年 SNS などの発達により、心理的につながるコミュニティは多く存在する。そこで宿泊サービス  
において顧客間の相互作用はホテルの評価を左右するが、今回私は相互作用のポジティブな面に着  
目し、企業がこのコミュニティ間の中で生まれる顧客間の相互作用を活用する方法を考察する。

西原歩 保護猫が減らない原因と課題 ～殺処分の動物をいかに減らすことができるのか、私た  
ちにできることは何か～

ペットブームが続いている中、殺処分という問題も未だに申告である。今回は保護猫という観点か  
ら保護猫が生まれる原因とその解決方法をヒアリング調査のもと分析した。

西谷悠里 日本人の韓国・韓国人イメージ調査

日本人大学生を対象とした韓国に対するイメージ調査と、学習者と非学習者ではイメージ形成に違  
いはあるのかを分析した。

鈴木ゼミナール紹介

私たち鈴木ゼミナールでは、鈴木正明先生のご指導のもと、企業の経営戦略、価値創造について勉  
強しています。ゼミ内では、専用の教科書を読み合わせしながら経営について広く学んでいます。

# 6402

## 齋藤ゼミ

内井麻衣 「重国籍問題—日本と他国の現状からどうあるべきか—」

重国籍という外国では馴染みのある言葉だが曖昧である問題。日本でも重国籍に関するいろいろな  
問題が飛び交う中で他国、欧米とアジア間での視点から課題認識、解決について考察した。

村上あき 「子どもの権利条約は少年兵の減少に有効に機能しているのか」

武力紛争における少年兵問題に対して子どもの権利条約は有効であるかを、各国の少年兵問題を取  
り上げて考察した。

渡邊衣織 「WTO が進める経済のグローバル化によって国家間の格差は広がったのか」

WTO の活動によって経済がどのように変わったのか、組織の仕組みや協定からグローバル化が進  
んだのか、国家間の関係は変わったのかを考察した。

### 齋藤ゼミナール紹介

国際法というテーマにおいて議論をする参加型のゼミで、多角的な面から物事を考える姿勢や、発言する能力を身につけます。少人数で先生と生徒の距離が近く、充実した環境で難しいテーマに挑戦しています。

## 山崎ゼミ

### 石浜優海「十字軍に対するキリスト教とイスラム教の認識の相違」

歴史的観点と宗教的観点からキリスト教とイスラム教の十字軍に対する認識の相違を比較すると共に、現在過激派組織で用いられる「ジハード」という言葉が持つ意味合いについて考察する。

### 萩原将太「フランスにおける移民統合政策と今後の課題」

移民大国フランスでの共和国的価値観から起こる非ヨーロッパ系移民の問題点を見つめ、多文化共生に向けて何が必要かを考察する。

### 山崎ゼミナール紹介

山崎ゼミでは日常を哲学するという指導方針の下、3年生と4年生の合同でゼミ活動を行い、毎週課題図書を輪読し、ディスカッションを行うほか、自分たちの興味のある分野について語り合いました。

## 井上ゼミ

### 青井香澄 博物館展示が見世物にならないためには～ミイラ・人体における展示の尊厳について考える

博物館に展示されている展示品には、尊厳を守られる権利がある。論文では、ミイラや標本など人体に関するものについて述べていく。

### 大谷遥 企業ミュージアムのおもてなしが人々や経済に与える影響とは何か

企業ミュージアムが行うおもてなしについて考察する。そして今後企業ミュージアムがどのような在り方をするのかについて論じる。



## 大場陸 地方活性化における地域博物館の役割

地域博物館を地域の活性化に利用する動きが増えている中で、地域博物館をいかに役立てていくか。地域博物館の現状や課題を考察し、これからの地域博物館の在り方をいくつかの事例を交えて論じる。

## 温路賽克 中国人観光客を三鷹の森ジブリ美術館に誘致する方法

中国でも大人気の三鷹の森ジブリ美術館に誘致するメリットやデメリット、効果的な取り組みなどについて論じる。

## 齊藤柚 「近代水族館の魅せ方と展示の変化」—水族館の目指すべきビジョン

2015年7月にオープンしたアクアパーク品川グラウンドは都心にできたプロジェクションマッピングやタッチパネルなど、最先端のテクノロジーを駆使した展示が楽しめる新しい水族館の形として台頭してきている。このような新しい展示の取り組みをする水族館が増え、行楽施設として年々発展していつている。今回は展示の仕方に注目し、魅せ方による集客への影響、現代の展示の仕方へ発展に至る歴史はどのような歩みをしてきたのか、水族館の意義と役割を鑑みつつ、今後の水族館の発展について考える。

## 高野拓未 高校野球は教育の一環なのか ～球数制限から考える～

登板過多で投手が表舞台から消えていく現状を鑑み、球数制限やレギュレーション変更を導入し、正当な教育の場としての高校野球のあり方を論じる。

## 中庭紬 鎌倉彫技術のデジタルアーカイブ化とその保存におけるミュージアムの活用

後継者不足が課題となる伝統工芸品産業で、その技術の保存方法として注目されるデジタルアーカイブ。私はその保存・活用場所としてミュージアムが適切ではないかと考える。鎌倉の伝統工芸品である鎌倉彫を例に挙げ、伝統工芸技術保存のためのデジタルアーカイブ化の現状と課題、ミュージアムの活用について論じる。

## 西川彩夏 惨事を扱うアート展は鑑賞者の災害意識にどのような影響を与えたか—「カタストロフと美術のちから展」と「人と防災未来センター」の例をもとに—

「カタストロフと美術のちから展」の企画意図と鑑賞者の感想にどのような違いがあるかを調査する。また、神戸の「人と防災未来センター」の例を挙げつつ、惨事を扱うミュージアムと企画展の特徴を整理し、今後のあり方を考察する。

## 吉澤優稀 ヨガがもたらす影響と課題について

ヨガのもたらす影響と問題になっている課題について、体験を経て、論じる。

## 井上ゼミナール紹介

井上ゼミはコミュニケーションを重視し、和やかな雰囲気です活動しています。座学やゼミ合宿、フィールドワークで得たミュージアムについての学びを、地域イベント内のワークショップ運営で活かし、地域の方々との交流や、子どもたちのミュージアムや地域資源への関心を高めるための工夫へ繋げています。

## 林ゼミ

原明里 持続可能な農村開発と指導者の育成

### Capacity development for sustainable agriculture

アジア学院で途上国の草の根リーダーたちが直面する問題と解決に導くプロセスを学び、その後インドネシアにて卒業生の活動の様子を現地調査した。これらの経験から得た持続可能な農村開発について考察していく

矢野加菜 教育現場から見る外国人労働者の未来

### Making enabling environment for migrant workers through Japanese language education

少子高齢化が進む日本で、更なる受け入れの拡大が期待される外国人労働者。海外の学校で日本語を教える、日本語パートナーズ派遣事業の経験から、日本語教育の重要性と外国人労働者受け入れの在り方を提案する。

佐藤優 持続可能な社会を目指して-食品ロスの問題とその社会的構造-

### Changing the fabric of our society to make it fundamentally sustainable –A case of food waste-

食品ロス問題は単に食品という資源を捨てることに留まらず、環境問題や経済に関わることである。それを取り巻く社会構造を理解し、その上で持続可能な社会を実現するため、新しい社会の仕組みを考察する。

宮本亜斗夢 カナダの多文化主義・移民政策 ―その現状、そして未来

### Multiculturalism and immigration policy in Canada

歴史、政治体制、現地の様子、政治状況、経済の主に五つの内容から調査を行い、なぜカナダでこうした理念、政策が支持されているのか、またそれは今後どの様に変化していくのかについての考察。

勝俣優 アフリカの未来のための開発

### Developing Africa for the future

アフリカ開発における日中比較と中国進出の背景、恩恵、問題、日本型開発の可能性についての考察

伊藤あさひ 翻訳機の進化と日本語教師・日本語教育の将来

### **How technological advancement can change Japanese languages learning**

翻訳機が発展することによる言語学習の必要性、日本語教師のあり方を留学生へのアンケート結果をもとに論じる。

佐藤堅介 日本における LGBT の社会的受容と権利の実現

### **Policy Agenda for LGBT in Japan: Social acceptance and protection of human rights**

日本における LGBT の社会的受容と権利の実現を行うにはどうしたら良いかについて、日本の現状の取り組みや法案をもとに近隣諸国の取り組みを比較して考察する。

加藤里菜 文化の接触と理解 共生に向けて ～日本におけるタトゥーの事例から～

### **Living together with different cultural back ground-A case of tatto in Japan-**

日本国内に外国人観光客や在日外国人が増加する中で、日本は異文化にどう対応していくべきか。文化接触によりおこる問題を理解し、多文化共生を目指すためにはどうすればよいのか考察していく。

千葉あすか 情報提供・共有を通じた人々の生活と意識の変化

### **Improving rural livelihood by enhanced information through community radio station-**

情報の人々の生活における重要さをコミュニティラジオの特性を基に考察し、ネパールの例を用いて実際にコミュニティラジオを利用している人々が取り入れた情報の実生活への反映の仕方とそれによる意識の変化の検証

木村みなみ 日本語学習者の第一歩と将来のサポートをするために

### **How can we design "learning Japanese" program for beginners?**

アメリカで出会った日本語学習者と留学生別科の学生のアンケート結果や、日本政府の留学受け入れ基準をもとに、初歩的なレベルの日本語学習者の挑戦心と将来の支援をする短期留学プログラムのあり方を考える。

田村弘太郎 子ども兵の減少、社会復帰を目指して～ウガンダの現地調査を踏まえて～

### **Rehabilitation and Re-integration of child ex-combatants in Uganda**

貧困地域で問題になっている児童労働。その中でも特に子ども兵に焦点を当て、貧困地域における子ども兵の現状、抱える問題、社会復帰にはどのような活動・アプローチが有効であるのかを現地調査の結果を踏まえて論じていく。

真栄田萌 うちなーやまとうぐちから考える消滅危機言語のための逆行的言語シフトモデル

### **Reversing language shift model for endangered language in Okinawa**

琉球語と標準語が接触して発生した新方言「うちなーやまとうぐち」。標準語化が進み琉球諸語が消滅していく過程の言葉としての現状をとらえ、今後につながる持続的なコミュニケーションを考察する。

大友未来 沖縄からルワンダへ -平和構築の在り方とは-

### **Sustainable peace building-A comparative analysis of Okinawa and Rwanda**

沖縄県にある名桜大学で半年間の国内留学をした経験から「平和」への関心を強め、理解を深めた。その経験をもとに、ルワンダでの現地調査で学んだジェノサイド後の和解プロセスを考察し、平和構築のあり方を考える。

糸山百恵 平等で自由な世界にしていくには - ジェンダーギャップ指数から考える課題と期待

### **Making the world more equitable –Analysis of women’s empowerment through the Gender Gap Index-**

文化や宗教に触れる中で性別により職業や社会的地位が決まってしまう事に疑問を抱き、ジェンダーギャップ指数を用いて要因を探る。また「女性が輝く社会」を本当の意味で実現するために必要な取り組みについて考察する

重田みなみ 消えた給食支援 -持続可能な社会貢献とは-

### **The road to failure is paved with good intentions-A case of school lunch support for Cambodian children-**

私は、社会貢献のできるグルメアプリを運営する「株式会社テーブルクロス」に2018年夏から関わってきた。会社の給食支援が現地に届いているのかを疑問に感じ、支援先の1つであるカンボジアで現地調査を行なった。

小椋玲奈 持続可能な地域作りと観光地—スペイン Salamanca の事例

### **Sustainable urban development and tourism –A case of Salamanca, Spain-**

大学生の夏休みは毎年ヨーロッパを訪れ、観光地もそうでない場所も数多く巡りました。ホームステイをしながら語学学校に通った思い出の地、Salamanca の持続可能な地域作りと観光について考えました。

日詰菜々子 印象形成の改善を通じた持続可能なグローバルコミュニケーション

### **Sustainable Global Communication through Better Impression Formation**

外国人に対する印象はどのように形成されるのかという調査を基に先入観の有無や印象形成の段階における改善点を探り、日本人にとって他の文化・宗教的背景を持つ人々との持続的なコミュニケーション力を考察する。

古川大祐 貧困削減のためのイノベーション

### **Poverty reduction through social of technological innovation**

貧困問題を解決するためにどんなことが有効かを考え、その答えをまとめた卒業論文になっています。海外で学んだこと、4年間の大学生活でから考察して自分なりの考えをまとめました。

### **林ゼミナール紹介**

国際社会に出た時に必要な計画づくりと評価の基礎能力を学んでいます。多様性を大切にするメンバーが多いため、尊重しあいながらディスカッションのできるゼミです。

# Cグループ

13 : 30 ~ 14 : 30

6102 山口ゼミ・千葉ゼミ

6108 那須ゼミ・奥田ゼミ

6301 黒沢ゼミ

6403 菅原ゼミ

6419 横川ゼミ

## 山口ゼミ

### 浅野麻衣 「化粧が自己評価と行動に与える影響」

化粧をすることにより自己評価や行動に、どのような影響を与えるのかを検討した研究内容です。

### 石井くるみ 「フラを通して異文化交流～ハワイから世界平和へ～」

フラという踊りを通して、どのように異文化交流が行われ、その異文化交流によってどのように人々が理解を深めているのかを検討した研究内容です。

### 岩村昂樹 「サービス業における第一印象と顧客満足の関わり」

サービスを提供する場面での従業員の第一印象が顧客にどのような印象を与え、さらに顧客満足にどのように関わっていくのかを検討した研究内容です。

### 大川陽菜 「自己効力感がパフォーマンスに与える影響」

自己効力感の高低差が職場や日常生活におけるパフォーマンスにどのように影響を与えるのかを検討した研究内容です。

### 越智未裕 「モチベーションがチームワークと従業員満足に与える影響」

モチベーションを高く持つことにより、職場の仲間と円滑なコミュニケーションが取れ、チームワークが向上し、さらに従業員満足も高くなると仮定し、どのように影響を及ぼすか検討した研究内容です。

### 木谷叶絵 「SNS が旅行行動に及ぼす影響～若者に焦点をあてて～」

昨今の若者の旅行離れの要因は SNS の旅行関連の投稿を見ることによって、行った気持ちになることで起こると仮定した上で、どのような影響を及ぼすのかについて検討した研究内容です。

### 木原泉美 「SNS が美容整形に与える影響～20 代女性に焦点をあてて～」

SNS (Social Networking Service)利用の増加が著しい中 SNS の普及が美容整形にどのような影響を与えているのか明らかにした上で美容整形の今後の課題について検討した研究内容です。

### 桑原数弥 「笑顔がチームワークとモチベーションに与える影響」

日常生活において欠かせない笑顔には様々な効果があるといわれています。笑顔がチームワークとモチベーションにどのような影響を及ぼすのかを検討する内容です。

#### 齊藤葵 「国際交流経験がパーソナリティに与える影響」

国際交流の経験は、パーソナリティの中でもセルフモニタリング、共感性、リーダーシップ、私的  
自己意識に影響を与えると仮定し、どのように影響を及ぼすのか検討した研究内容です。

#### 柴原永和 「姉妹都市提携が地域活性化に及ぼす効果：神奈川県茅ヶ崎市の場合」

姉妹都市提携によって活性化した地域の事例を比較、検討し、神奈川県茅ヶ崎市を例に地域活性化  
に効果的な姉妹都市提携の方法を明らかにする研究です。

#### 西尾夏海 「ICT 業界におけるホスピタリティ～ICT 人材のパーソナリティとの関わり～」

近年、成長が目まぐるしい ICT 業界におけるホスピタリティを、ICT 人材が有するパーソナリティ  
との関わりから検討した研究内容です。

#### 日高麻莉絵 「化粧が対人魅力とその後の人間関係に及ぼす影響」

化粧を施すことにより対人魅力が向上し、その後の人間関係にどのような影響を及ぼすのかを検討  
した研究内容です。

#### 平林和也 「思いやり行動がコミュニケーションと職場の人間関係に及ぼす影響」

職場での働きやすさが重視される現代において思いやり行動を積極的に行うことがコミュニケー  
ションと職場の人間関係にどのような影響をもたらすのかを検討した研究内容です。

#### 松沢美里 「香りが印象形成に及ぼす影響」

現代社会において様々な場面で人々に癒しを与える香りだが役割はそれだけではない。香りが印象  
形成にどのような影響を及ぼすのかについて検討した研究内容です。

#### 村松恵実 「サービス業における顧客満足と非言語行動の重要性」

サービス業において、笑顔、アイコンタクト、うなずきの3つの非言語行動が顧客満足に与える影  
響について明らかにした上でそれらの重要性を検討した研究内容です。

#### 山口ゼミナール紹介

社会心理学を研究分野とする山口一美教授のもと、フィールドワーク等を通し観光業界におけるホ  
スピタリティ・マネジメントなどについて学んでおります。



# 千葉ゼミ

## 鈴木桃華 報酬による内発的動機づけの維持・促進について

本研究では、報酬と動機づけの関係を整理し、内発的動機づけとの結びつきを明らかにすることを目的とし、また内発的に動機づけられた状態を維持・促進していく方法について考察した。先行研究を検討した結果、学習者の報酬のとらえ方が重要であり、内発的動機づけを維持するためには、自己効力感を高め、効果的に自己調整学習を行うことが有効であることが明らかとなった。

## 辰口奏子 若者と中高年からみる若者言葉「やばい」の違和感

本稿では、若者と中高年に焦点を当て、若者言葉「やばい」における会話の不成立が起こる原因について考察をする。そのためのアプローチとして、「やばい」の語源や意味拡張、用法などの特徴を分析した。これから求められる「やばい」における会話の不成立の原因を考察した結果、国語辞典の記載によるもので、若者と中高年との間で言葉の意味理解に違いがあるという結論に至った。

## 塚越滉太 語彙学習において、効果的な学習方略とアウトプットへの影響

本研究では、まず語彙学習において、学習習熟度の高い学習者と低い学習者で使用されている学習方略の違いを見つけ出すとともに各学習方略の特徴をについて考察することを目的とする。次に、各学習方略を使用したことによるアウトプットへの影響を検証することを第二の目的とする。その目的のために、いくつかの先行研究とその研究結果を比較し、考察することで学習習熟度によっての学習方略の使用頻度とその学習方略を使用したことによっておこるアウトプットへの影響を明らかにすることとする。

## 北村歩 英語学習者における学習意欲喪失要因とは何か

本研究では英語学習者にとってどのような時にやる気がなくなるのかについて論じるものである。津村(2010)と同様の質問紙を用いてアンケートを実施した。因子分析から、学習意欲喪失要因を抽出しそれについて検討を行った。

## 三村あやこ 第二言語習得における言語処理の自動化が進む過程で起こる母語の影響

第二言語を習得することは、必要以上の意識をしなくてもその言語の使用を選択できるようになることであるとも言われている。その現象を自動化と言う。本稿では第二言語習得時に起こる自動化を妨げる原因を母語の干渉であると仮定し、その先行研究をもとに検証する。

## 千葉ゼミナール紹介

千葉ゼミは、英語を学ぶ過程を通じて、英語教育や応用言語学（言語の習得、言語教育など）、学習心理学について学んでいます。日々の活動では、意見交換や発表の場などを設け、お互いが意欲的にコミュニケーションをとりあいながら、ゼミでの学びを通して興味を持ったトピックをそれぞれの研究テーマとして取り組みました。

# 6108

## 那須ゼミ

ガリレイディアンズ璃紗 「一次製品のブランド化における名称の戦略について」

一次製品の「土地名を含むもの」と「土地名を含まないもの」に着目し、長野県某町のリンゴのブランド化をするにあたり、とるべき戦略について論じる。

井出彩香 「職業価値観と職場内人間関係」

職場内の人間関係を職業価値観という観点を用いて分類し、職業価値観が人間関係にどのような影響を与えるのかについて論じる。

南晴貴 「今後のガソリンスタンドにおける競争戦略」

縮小していくガソリンスタンド業界とガソリン車の新たな使い方を論じる

小池友里恵 「LGBT 当事者の社会的困難を解決する活動を行う NPO 起業立案」

LGBT 当事者の抱える現状の課題を根本的に解決するために NPO 団体としてできる活動を考案、提案する。

小田切花奈 「イノベーティブなオフィスの在り方とは」

持続的イノベーションと破壊的イノベーションの2つのイノベーションモデルをオフィスにおいてどのようにして共存させるのか、オフィスのハード面、ソフト面の両面から論じる。

山戸実織 「短期化する製品ライフサイクルの中で消費者を囲い込むためのブランド戦略」

製品ライフサイクルの短縮傾向からブランドを超えての製品買い替えが増加していく中で、消費者が特定ブランド内で消費し続けるための態度変容プロセスとその要素について論じる。

### 岡山叶 「金融業界の調査研究 ～IT 技術を活用した銀行の生き残り戦略～」

金融業界の予測分析を踏まえ、銀行が IT 技術を活用しこれからどう生き残っていくべきなのかを論じる。

### 松島梨央 「なぜ組織は維持されるのか」

組織を維持、発展させていく役割を担う者はその組織に属する人その者である。しかし、人の入れ替えがある組織において、なぜ組織形態は失われることなく維持されるのか。これをリーダーとフォロワーの役割と考え、考察していく。

### 森本彩 「神奈川県藤沢市湘南大庭地区（湘南ライフタウン）の地域活性化プラン ～起業の挑戦サポート応援プラン～」

神奈川県藤沢市湘南大庭地区における地域活性化目的としたビジネスプランについて論じる。

### 武川菜々子 「中小企業がイノベーションを促進する為のオフィス提案」

-中小企業におけるイノベーションの現状と課題を分析し、インキュベーション型サテライトオフィスを提案した-

### 湯本麻衣 「外国人労働者の職場への適応—組織におけるインフルエンサーと外国人との関係性」

外国人労働者が日本でより長く働いてくれるような、外国人のなじみやすい職場の在り方を、組織におけるインフルエンサーとの関係構築に着目して考察する。

### 菊池椋介 「サバイバルゲーム市場の拡大と持続」

サバイバルゲーム市場拡大と持続を目的とした、フィットネス市場へ参入と同市場での施策の提案、その後のサバイバルゲーム市場がすべきことの考察。

### 菊田みなみ 「ベトナム国ハノイ市都市ガス計画フィージビリティスタディ」

ベトナム国のハノイ市をモデルに都市ガス導入プロジェクトのフィージビリティスタディを実施した。

### 野沢篤志 「楽天の現状分析と競合他社の勢力図と今後について」

楽天の現状と競合他社の現状を踏まえた上で対抗するための施策

### 須田千尋 「現代の消費行動の特徴と旅行商品の特殊性から、店舗を持つ旅行会社が顧客に提供する価値について」

インターネットによって旅行予約を利用する人が増加している中で、店舗を持つ旅行会社が顧客に与える価値について論じる。

## 那須ゼミナール紹介

那須ゼミナールでは 2 年間で「経営管理、マーケティング、ブランディング」について学びました。実際にプロジェクトを行い、複数の企業の経営戦略について話し合うことで、同期全員で共に学び成長することができました。

# 奥田ゼミ

## 篠田侑希 AI で溢れる未来社会での人間存在～AI と人間は共存できるのか～

近年、技術の進歩が止まらない AI。その AI の危険性はたくさん挙げられている。その中でも私は特に、AI の作る宗教社会や、人間界での思想的社会の到来ということ視野に入れて、AI と人間が共存していける社会があるのか、その姿を描いていく。

## 渡辺加奈 「宗教観」に関する国際学～日本人はなぜ無宗教なのか～

「あなたの宗教はなんですか？」と日本人に問うと無宗教は 70%に上っているという統計がある。宗教を持っている人にとっての、その在り方を論考した上で日本人は本当に無宗教であるのか、また、日本人にとっての宗教の意味についても考える。

## 學之美紗 テーマパークの国際学～地方テーマパークがこれからも存在し続ける為には～

今や世界中に当たり前のよう存在する娯楽施設、それがテーマパークである。しかし都心部の大規模テーマパークが動員数を年々増やしていく一方で、地方のテーマパークは次々と閉園を余儀なくされている。日本のテーマパークは今後どのように発展していくのか、地方テーマパークが持つ未来性とそれをどう活かしていくのかを考察する。

## 堀口 翼 コンピュータゲームから展望する未来～人とゲーム、「共存」の形について～

約半世紀の間、急速に進化を遂げてきたコンピュータゲームは、今では身近な娯楽の一つとして人に愛されている。

しかし、コンピュータゲームに対する世間の目は依然冷たく、「コンピュータゲーム＝教育上良くない物」という固定概念が未だに抱かれている。これからのコンピュータゲーム業界の発展の為、人々が抱くマイナスな印象の根源を考察し、それらは誤りであると論証する。

## 真辺聖輝 現代世界とテロリズムに関する考察

最近ではテロというものは遠い存在ではなく近い存在になってきた。そんな中でテロリズムを悪化させている原因は何であるのか。また、2020年オリンピックが開催され様々な国の人々が来日するなか、日本が気をつけるべきことはなにか。アメリカとテロの関係性はなんなのか。最後のまとめとして今度テロリズム社会をどう解決していき、どう共存してくのかを考察していく。

## 知花あかり 地方中央関係の分析～沖縄県と日テレの関係を出発点として～

「日本テレビが沖縄県で放送されていないのはなぜか？」この疑問から浮かび上がる「地方」と「中央」との関係は沖縄県と日本テレビだけではない。メディアや行政、教育の中においても存在する地方と中央の関係について分析し、これからの社会について考察する。

## 浜田菜々子 日韓の歴史認識の差に関する考察～相互理解に至るためには～

日韓の歴史認識には差があり、それにより数多くの問題が起きている。どのようにして歴史認識の差が生まれ、問題となっていたのか、また相互理解を進めていくにはどうしたら良いのか考える。

## 柳田拓海 近年増加している訪日観光客の考察～何故訪日観光客は来るのか、急増しているのか？～

2020年の東京オリンピックに向けて近年訪日観光客が増加している。2018年では約3000万人を越え、首都圏を中心に沢山の訪日観光客が見られる。訪日観光客は何故日本に来るのか？受け入れ側はどう対応していくべきか考える。

## 米山倫代 「「かわいそう」という言葉の国際学」

「かわいそう」という言葉にはどんな意味があるのか、どんな状態を指すのか。また、その言葉の裏には、無意識下であっても他者への差別が含まれていないか。生きる上で私たちはどう「かわいそう」と向き合い、社会を形成していくのかを考える

## 所澤諒人 聖地巡礼～アニメによる聖地巡礼の経済効果について～

近年アニメの舞台となった土地に実際に訪れる、聖地巡礼という言葉が多く使われるようになった。聖地巡礼をする事により普段訪れる事のない地域に人が集まり経済効果が期待される。では実際にどのようにして経済効果が期待されるのか考察していく。

## 谷野溪 「本当のコミュニケーションへの考察～非言語コミュニケーションに焦点を当てて～

人間のコミュニケーションの道具として使用している「言葉」はあまりにも多種多様で、「言葉」に頼りすぎている。しかし、本当のコミュニケーションを成立させるうえで非言語コミュニケーション活用は不可欠である。本論文では非言語コミュニケーションについて考察していく。

## 奥田ゼミナール紹介

ゼミの活動では青森県の六ヶ所村を訪れ、無農薬の可能性を学んだり、核の持つ脅威を実感したりしました。また多くのゼミ生と共により多くの視点から様々な問題について考えてきました。本論文が私たちの国際学の集大成です。よろしくお願いたします。

# 6301

## 黒沢ゼミ

### 楡井 萌々香 「観光立国を推進させるためのホテルのあり方について」

年々、インバウンド数を伸ばしている日本がさらに成長するために、ホテルが果たすべき役割について、また東京オリンピックに向けてホテルができること、閉会後のホテルの需要について提案し、考察する。

### 井之上 美南 「会員制ホテルと非会員制ホテルの付加価値の違い～サービスを通しての限界と今後のホテルの存在～」

サービスによって顧客満足度の向上やリピーターをつかむためのサービスとサービスによって今後のホテルの存在が左右されることもある。会員制ホテルと非会員制ホテルでのサービスの経営戦略のポイントをどこに置いているのかを論文で述べていく。

### 遠藤 礼乃 「消費者の志向の変化を背景とした、美容業界の現状と展望」

消費者の美に対する価値観や要求が大きく変化している現在、美容業界におけるサービスが次第に変化しつつある。本論文では、人の外見のみならず内面までも明るく、美しくする美容の現状と業界の動向について考察する。

### 大八木 裕介 「豪華客船（クルーズ）の楽しみ方～洋上ホテルの実態～」

近年、若者の間でも人気が出てきているクルーズ。しかし、我々学生からするとまだまだお金と時間のある富裕層の娯楽というイメージを払拭しきれない。そこで、クルーズの魅力や利便性を紐解くことで一人でも多くの人々がクルーズを経験し、余暇を充実させる選択肢を増やしていけるよう述べていく。

### 斎藤 美咲 「結婚式の歴史と変化」

日本のブライダル業界の歴史や変化、現在の婚礼の現状について調査し、今後活かしていける新たな婚礼の形の提案やブライダル業界に必要な人材像を考察する。

### 佐藤 香菜子「少子高齢化とベーシックインカム」

近年、問題視されている少子高齢化に焦点をあて、現状と解決策を考察する。その中で、政府の政策であるベーシックインカムを一つの解決策として挙げ、日本の少子高齢化の今後を述べていく。

### 下沢 亜美「観光産業における、現代の旅行への購買意思決定プロセスとは」

電子機器の発達により SNS が進化していく中で、我々若者はどのように観光における旅行の購買意思決定をしているのかを考察する。

### 白土 真央 「ゲストハウス+αの今後の発展と役割について」

現在、注目を集めているゲストハウスの+αやそこでの交流について調査し、様々な事例をもとに、今後のゲストハウスの発展と役割について考察していく。

### 鈴木 幸之介 「お酒とバーの関係～これからのバー業界について～」

お酒とバーというテーマで、お酒とバーの定義・歴史に触れ、そこから私が考えるバーにおいてのホスピタリティ、これからのバー業界について考察する。

### 砂川 鈴香 「リゾート地における観光業の発展と環境保全」

日本のリゾート地の中でも、近年観光を取り巻く環境大きく変化している宮古島において、現状を調査し、自然景観をはじめとする観光資源が最大限に活かされ、同時に保全される方法を考察していく。

### 高崎 修太 「災害時・被災時におけるペットの保護と対策」

災害時・被災時において、ペットを守るために私たち飼い主ができる事を、過去の様々な事例をもとに考察していく。

### 成田 将馬「国内サッカーの今後の発展に何が必要か考える」

国内サッカーと海外サッカーの違いを分析し、今後日本でサッカー業界を盛り上げる方法を考察する。

### 萩原 実咲 「音が身体にもたらす影響」

私たちのいつも身近にある音には私たちにどのような影響をもたらしているのかを調査し、音による障害の医学を調べ、今後どのような医学の発展をするのかを考察する。

### 堀籠 華永 「アーユルヴェーダ理論の発展と進出～ヘルスツーリズムの現状と今後～」

食が体に及ぼす影響、効果、体質の違いなどを調査し、アーユルヴェーダというインド大陸の伝統的医学の発展と世界への進出、そしてヘルスツーリズムの現状について調査し、今後の可能性について考察する。

### 前田 みゆき 「京都における宿泊事業の現状と問題」

2020年東京オリンピックが開催される。それにあたり、大きな都市開発が進行している。京都でも様々なホテルが建設されている。これから京都はどのようになってゆくのか、どのような問題に直面するのかを考察する。

### 松尾 ほのか 「スポーツツーリズムでの宿泊産業の活性化について」

日本の目がスポーツイベントを例にスポーツホスピタリティの現状について調査し、他国との比較を行い、今後どのように活かせば宿泊産業を活性化できるのかを考察する。

### 村上 史歩 「宿泊施設での記憶に残るホスピタリティをAIで補える可能性について」

現在、様々な分野での人手不足でAIが活躍している。その中で宿泊施設がAIを活用しホスピタリティを与えている所もあるが、どこまでヒトが与えるホスピタリティに近づけるかをAIとヒトで比較し、今後もAIで補うことができるかを考察する。

### 森 諒平 「新日本プロレスリングのV字回復の要因と業界の今後を考える」

近年、業績のV字回復を見せた新日本プロレスリングの業績回復の要因を調べ、プロレス業界全体の今後を考察する。

### 黒沢ゼミナール紹介

黒沢ゼミはホテル研究をテーマとし、三年次から主にグループワークを中心に各ホテルの比較や調査を行ってきました。パワーポイントを使用した学期末の発表に向けて行う中間発表では、ゼミ生や黒沢先生のフィードバックを受け、発表の仕方や調査結果を改善していく機会もありました。ゼミ活動としては、様々なホテルに赴きフィールドワークを行い、ホテルで働く人たちの声やホテル業界の現状を学びました。個性あふれるゼミ生が多く、研究室はいつも賑わっていました。そんな黒沢ゼミの集大成、ぜひご覧ください！

黒沢ゼミ4年 佐藤 香菜子



## 菅原ゼミ

### 石垣恵美 2020年後の観光業界における宿泊産業の展望

2020年の東京オリンピックに向けて新規ホテルの建設ラッシュが続いている。そのような背景を受けて東京オリンピック開催後の宿泊産業に着目し、過去のオリンピック開催国の例などを参考に2020年後の宿泊産業をより発展させていくための施策を提言する。

### 両角雛乃 ジェンダー平等視点から見た第3号被保険者問題

現代の日本における年金制度の議論の1つとして第3号被保険者制度が挙げられる。ジェンダー平等視点を中心として、同制度の制定過程を考察し、今後の年金制度のあり方に対して提言を行う。

### 児島香織 沖縄観光の今後

現在、沖縄県の観光客数がハワイの観光客数に近づいている。沖縄県はハワイを上回るためにはどのような取り組みが必要なのか。ハワイと沖縄の観光現状を比較し、今後の展望を提言する。

### 半田彩摘 長野県の地域活性化について

現在の日本は人口減少による地域消滅といった問題があげられている。それらを解決するためこの論文では地域活性化のための観光まちづくりについて検討し提言する。

### 萌出小愛 若年層バックパッカーと東南アジア

休暇旅行者と長期旅行者の比較から、バックパッカーの定義を明らかにし、最近若いバックパッカーが増えているのはなぜか、人気渡航先である東南アジアとの関係から特徴と行動を紐解き提言していく。

### 在原ケイ 平均寿命の延伸から考えられる健康意識への関心

世界と比べても圧倒的に長寿社会の日本であるが、健康寿命延伸が今日でも注目を集める。そこから考えられる健康意識への関心を考察し、提言する。

### 高橋愛美 キラキラネームによる社会問題

「キラキラネーム」といった個性的な名前が問題視されている。なぜ親は子にキラキラネームをつけるのか、その背景とキラキラネームをつけられた子どもの将来を考察する。

## **ANUJAREEVAT JIRAWAN** 日本のシェアハウスの現状

現在、「シェアハウスブーム」とも言える状況となっている。シェアハウスという住まいの現状、シェアハウス入居者にアパートやマンションではなくシェアハウスを選択する理由、その経験によって今後の住まいをどのように決めていくのかを明らかにする。

## **佐々木美澄** ドライバー業界における女性活躍の現状と課題

女性活躍が当たり前となっている現代で、女性活躍の少ない「タクシー業界」などのドライバー業界に視野を置き、これからの女性活躍の少ない業界に役立つ提案をしていく。

## **鷺尾千央** ジャニーズから見る日本

アイドルというものは日常生活に馴染んでいて多くの人に癒しを提供している。その中でも「ジャニーズ」は根強い人気がある。なぜ「ジャニーズ」が日本社会に受け入れられるのかということ、日本組織の特徴と関連させながら明らかにしていく。

## **東海林結衣** 観光による災害復興の可能性

災害大国である日本における復興の過程には「観光」が大いに関係しているだろう。災害復興にダークツーリズムを活用することの課題や可能性について考察し、被災地と観光客が共に恩恵を受けるための方法を提言する。

## **鈴木綜馬** 海のゴミ問題～片瀬海岸（江ノ島）周辺を事例に～

海が、私たちの出すゴミによって汚染されている。国内で人気を誇る江ノ島の海と砂浜を次の世代に残すために、この現状を明らかにすると共に、今後の江ノ島の在り方について提言する。

## **八幡咲紀** 高齢者ドライバーにおける交通事故とその対策

日本では、高齢化に伴い高齢者ドライバーによる事故が急増している。高齢者の免許返納率や、現在のAIを利用した車の発展などを参考に、事故の対策を提言する。

## **YUE WANG** ファッション産業と生活スタイルの繋がり

日本のファッション産業は、2011年の東日本大震災を転換期とし、人々のライフスタイルの変化とともに、衣服だけではなく飲食や音楽を中心としたライフスタイル産業を行う企業が増えた。ファッション産業を取り巻く社会の構造を明らかにすることを試みる。

## **大島知夏** 日本と世界の働き方

現在の日本では長時間労働による過労死が問題となっており、日本政府は「働き方改革」を行なっている。そこでより日本が働きやすい国にするために海外と比較し、学ぶべき点について考え効率のいい働き方について提言する。

## 大部円樺 羽田空港における今後の可能性

2020年に4000万人、30年6000万人という政府のインバウンド観光客の誘致目標を達成するため、日本の航空政策は大きな鍵を握る。そこで、日本の空の玄関口である羽田空港の現状を明らかにし、また今後の日本経済に良い影響をもたらすための政策を考えることを目的とする。

## 長沼裕太 ファッショントレンドと時代の関係性

生活にあふれているファッションについて、歴史や流行の変化などを混じえて、どのように形成されているのか。時代によってファッションの流行が変わり、その影響で経済にどう関わっているのか、またメディア等の影響力や文化による服装の違いなどを関連させながら明らかにしていく。

## 長嶋花凜 2020年東京オリンピック・パラリンピックにむけた沖縄の在り方について

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにより多くの訪日外国人が日本を訪れることが予想される。今、日本の中でも観光圏に当たる沖縄県にスポットを当てどのように観光客の人々の受け入れ体制を整えていくのかを提言する。

## 菅原ゼミナール紹介

菅原ゼミでは、神奈川産学チャレンジプログラムや日経ストックリーグという株式投資コンテストへの参加を通して企業の調査・研究を行なっていきます。また、観光業をはじめとしたさまざまな企業について学び、社会人になるための基礎力を身に付けることができます。

# 6419

## 横川ゼミ

山田 大地 高齢者のための介護食レストラン ～3Dフードプリンター「FOODINI」の導入  
社会問題である少子高齢化と、介護食の見た目の悪さによる喫食量の減少に着目し、3Dフードプリンターを活用し見た目と健康、内装までこだわった介護食レストランを考案しました。

## 請田 瀬奈 ぷくぷく新商品提案「酒粕薫るアイスクリーイも」

目新しさと地産地消、また大学生らしさを意識し、茅ヶ崎で作られている日本酒「天青」の酒粕を使っての濃厚アイスクリームを考案しました。洒落っ気を滲ませた商品名もポイントです。

### 小池 陽菜 臥薪とハロウィンコラボ商品「ツナサラダのトマトカップ」

地産地消を意識して、男女ともに人気のある甘くて美味しい茅ヶ崎産のトマトを使用し、見た目もハロウィンっぽくアレンジした商品を考案しました。

### 杉本 歩美 ぷくぷく「しらす入り卵焼き」

ぷくぷくさんへの新商品提案で、湘南しらす入りの卵焼きを考案いたしました。

地産地消というアピールポイントで、誰にでもおいしく食べていただける商品を考えました。

### 前原 知里 新商品企画「サツマイモの挟み揚げ」

秋に販売することから食材や見た目の色味を考えながら提案しました。実際に採用していただき、様々なパターンでの試作を重ねたことでニーズに合った商品が出来ました。

### 北郷 亜里沙 ぷくぷくへの新商品提案

流行や、湘南地域の特産悲運、湘南発の商品などの情報を元に、新商品を提案しました。採用には至らなかったが、湘南地域をより深く知ることができ、非常に勉強になりました。

### 菊池 瞳 ぷくぷく新商品提案「アボカドポテトサラダ」

茅ヶ崎の食材を使い、地産地消を目指しているぷくぷくさんで学生ならではの目線で新商品提案を行いました。それに加えて女性がターゲットという点も併せて女性が好きなアボカドと湘南野菜をふんだんに使ったポテトサラダの組み合わせを提案させていただきました。

### 佐藤 明日美 臥薪さんへの新商品提案～バックストーリーを考える～

臥薪さんの少し高めのターゲット層でも、ハロウィンを楽しめるようなストーリーを商品に組み込むことを重点に置いて新商品を考えました。

### 鈴木 帆乃香 臥薪新商品提案

臥薪さんが得意とする和ビストロ料理とお店の雰囲気、客層を考え新商品を提案しました。また、臥薪さんならではの商品ということで歯ごたえや風味など特徴をつけました。

### 町田 美樹 ぷくぷく新商品提案

ゼミナールに入って初めて商品提案させていただいたもので茅ヶ崎のご当地カクテルとデザートを合わせたものを提案しました。

### 藁谷 はる香 “ノンアルコール居酒屋”の提案

日本の外食における課題と未来の発展というテーマに対し、若者のアルコール離れに着目して『ノンアルコール居酒屋』を提案しました。居酒屋なのにノンアルコール！？と興味が惹かれる、学生ならではのアイデアだと思います。

### 村瀬 桃子 たーんむ唐揚げの提案に至るまで

臥薪さんとコラボするに当たり、まずは色々な店舗へ足を運び、商品を口にしてヒントを得る様に心がけました。その結果、もともとは沖縄のローカル食だったものをアレンジし、ハロウィン商品として臥薪さんらしさを加えてコラボするところに行きつきました。

### 佐藤 瑠 臥薪の商品提案「ヴァンパイアサラダ」

ハロウィンメニューということで、使用する野菜とソースの色味にこだわりました。女性をターゲットにして、甘いブルーベリーソースをかけたサラダを提案しました。

### 杉澤 脩太郎 「ポップアップレストラン」の計画立案

外食産業の未来提案として、ポップアップレストランを提案しました。3D ホログラムを使うことで、映画の世界に飛び込んだかのような体験型レストランにしました。

### 横川ゼミナール紹介

横川ゼミナールの今学年では、2年間で2つの飲食店と共に、プロジェクトを行いました。

1つ目は「ぷくぷく」という焼き鳥と日本酒がメインのお店で、隠れ家的な雰囲気ダイニングバーに寄り添ってイメージしながら商品開発を行いました。二つ目は「臥薪」という炉端焼きが看板商品のお店で、ハロウィン商品を提案するため学生らしいアイデアを考案することに尽力しました。メンバーの趣味や個性が、プレゼンテーションや商品にとっても活きるため、2年間とても充実したゼミナールになったと思います。

## 卒業研究発表会 2019 準備メンバーの紹介 (ゼミ順不同・敬称略)

### 幹部

代表 半田 紘子

書記 佐藤 香菜子・根本 麗香

ポスター・プログラム班リーダー 北野 歩・丸茂 奈緒

会場班リーダー 谷野 溪

### 各ゼミ選出委員

井上ゼミ 中庭紘

横川ゼミ 請田 瀬奈

海津ゼミ 半田 紘子

宮原ゼミ 藤原 円実

栗原ゼミ 長谷川 輝

高井ゼミ 小島 萌

黒沢ゼミ 佐藤 香菜子

山口ゼミ 齋藤 葵

小島ゼミ 比留間 匡秀

杉山ゼミ 東樹 佳希

菅原ゼミ 石垣 恵美

黛ゼミ 丸茂 奈緒

那須ゼミ 菊池 棕介

鈴木ゼミ 坂下 加那子

阿野ゼミ 久米本 遥香

山崎ゼミ 石浜 優海

生田ゼミ 山口 琴乃

奥田ゼミ 谷野 溪

赤坂ゼミ 根本 麗香

高橋ゼミ 富澤 実佐子

千葉ゼミ 北村 歩

金井ゼミ 佐藤ゆい

北野ゼミ 村上 敬太郎

塩澤ゼミ 白藤 紗季

林ゼミ 日詰 菜々子

山田ゼミ 吉田 彩笑子

渡邊ゼミ 市川 エリアーナ

齊藤ゼミ 渡邊 衣織